

取組事例 14

「たまねぎ交流園」定植体験、収穫体験

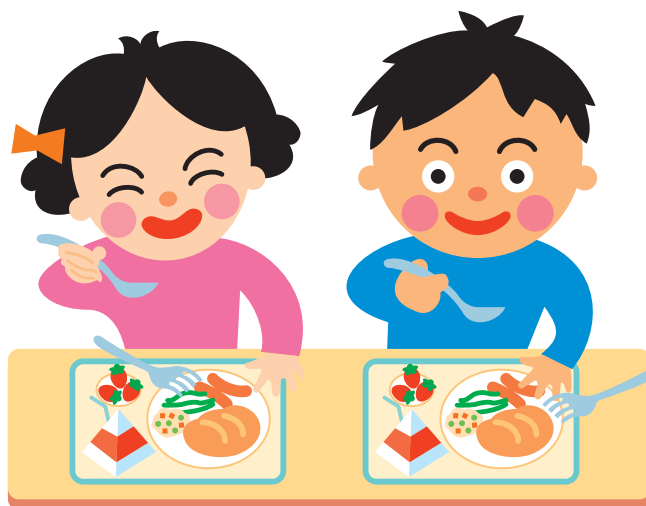
(わかやま市民生活協同組合)

1994年からはじまった「たまねぎ交流園」のとりくみは、恒例の行事となっています。地元の紀ノ川農協との協力で、生産者との産地交流の一環として取り組みはじめ、毎年、多くの親子らが参加しています。

毎年11月の下旬に、稲刈り後の田に苗の定植を行い、翌年の5月下旬にたまねぎの収穫を行います。

たまねぎの栽培方法にもこだわり、除草剤を使わなくて済むようにと黒いビニールを地表にはり、穴をあけて苗を植える「マルチ栽培」を行っています。

収穫体験後には、収穫したたまねぎを調理して、みんなで食べます。水にさらさなくても甘いオニオンサラダを楽しみにしている家族や、たまねぎたっぷりのカレーを口いっぱいほおぼる子どもなど、収穫の喜びを食べて実感し、食について関心や考える機会にしています。



取組事例 15 ～「みかん、梅干しで元気キャンペーン!!」の実施～

若者を中心に果物の摂取量の減少や、伝統加工品である梅干しを食する機会が減少しているなかで、「果樹王国わかやま」の主要品目であり全国一の生産量を誇る本県産「みかん」と「梅干し」を通して、栄養面や機能面を広く県内児童に伝え、みかんや梅干しを身近なものとして食す習慣を養うため、生産者団体、食品加工団体、教育、行政が一体となり、県下の全小学校、盲・ろう・養護学校を対象に実施しています。

キャンペーンでは、教師や県農業技術職員等が、みかんや梅干しの県内産地の状況や生産の歴史また機能性等について「みかんや梅干しのお話し」のパンフレットを使って説明しています。

みかんで元気キャンペーン



- ◆実施年度；平成15年度～17年度
- ◆対象校；県下全小学校、盲・ろう・養護学校
- ◆平成17年度実績 313校 776ケース/10kg
- ◆みかんのお話しパンフレット 70,000枚

梅干しで元気キャンペーン



- ◆実施年度；平成17年度～
- ◆対象校；県下全小学校、盲・ろう・養護学校
- ◆平成18年度実績 306校 74,650個（1個包装）
- ◆梅と梅干しのお話しパンフレット 70,000枚

取組事例 16 ～県下一斉に「みかん苗ポット栽培体験!!」の実施～

平成15年度より「果樹王国わかやま」の主要品目であり全国一の生産量を誇る本県産「みかん」の栄養面や機能面を広く県内児童に伝える取組を実施してきたなかで、栽培体験を通してみかんの成長過程を観察し、作物を大切に育てる心を培うとともに、果物を身近に感じてもらうため、教育、行政が一体となり、県下の全小学校、盲・ろう・養護学校を対象に、農産物を通じた体験型の食育の取組として、「みかん苗ポット栽培体験」を実施しています。

対象の学校では、県農業技術職員等が児童を対象に、ポット苗の植え付け実習を行うとともに、栽培の注意点や管理の方法についての授業を行いました。

- ◆実施年度；平成18年度～20年度
(3ヶ年で県下全小学校等へ配布)
- ◆平成18年度取組実績 89校
412ポット
- ◆育ててあそぼうミカンの絵本 各校1冊
- ◆みかん栽培マニュアル 各校1冊



5月上旬に一斉に体験



11月の成長の様子

取組事例 17 畜産おはなし講座「スプリ数珠つなぎ」(社)畜産協会わかやま

インターネットで井戸端会議「井戸端スプリ」

畜産に関する生産から消費まで色々なテーマで話題提供を行っています。

テーマ (例)

- 乳牛の赤ちゃんから牛乳を出すまで
- 食肉が出来るまで
- 日本の食料自給率や畜産物の生産は大丈夫
- 牛肉のトレーサビリティ
- 畜産技術 (受精卵移植、クローン牛)



取組事例 18 わかやまたまごマップを県内小学校へ配布 (和歌山県養鶏協会)

消費者の方々に鶏卵に対する様々な知識を普及し、安全・安心な鶏卵を供給することを目的とした活動を行っています。

また、幼い頃から「食」への理解と興味を深めるためのきっかけ作りを目的とし、県内小学校低学年児童への普及啓発資材 (右図) の配布を行っています。



取組事例 19 学校給食用牛乳の安定供給 (和歌山県牛乳協会)

～地域酪農・乳業に対する理解の醸成～

学校給食用牛乳の消費の維持・拡大、牛乳の持つ栄養素等に対する正しい知識の普及及び地域酪農・乳業に対する理解の醸成を図るため、学校給食における牛乳の安定供給を中心とした取組を行うとともに、牧場ふれあい事業、県内市町村の教育関係者を対象とした研修会の開催、児童、生徒及び保護者を対象とした普及啓発資材の配布 (右図) 等を行っています。



取組事例 20 牛乳乳製品図画コンクール、料理コンクールを開催 (和歌山県牛乳普及協会)

図画コンクール（下図）、料理コンクール（下図）、骨密度測定の実施（牛乳とカルシウムの関係）の取り組み等、酪農・乳業に関する知識の普及に努め、消費拡大だけでなく、食生活改善にも貢献しています。



取組事例 21 「熊野牛」を使った料理講習会を開催 (和歌山県熊野牛ブランド化推進協議会)

県特産和牛の「熊野牛」を使った料理講習会を開催し、牛肉に関する知識について、広く伝えています

また、地産地消を軸とした取り組みを行っており、フェア等で消費者の方々と積極的に交流し、普及活動を行っています。



取組事例 22 特用家畜を使った料理コンクールを開催 (和歌山県特用家畜普及推進協議会)

県内で飼養されている特用家畜（紀州鶏、イノブタ、ホロホロ鳥等）の生産・消費拡大を目的とした活動を行っています。

料理コンクール等で、ひと味違う、特用家畜の魅力を広く参加者の皆様に伝え、地産地消を推進しています。



取組事例 23 おさかなママさんの魚食普及活動 (和歌山県漁協女性部連合会)

～ 漁村のおさかな料理、楽しみ方を伝授 ～

●おさかなママさんクッキングセミナー

県内各地で園児から地域女性までの幅広い世代を対象に魚介類の調理法、料理法、鮮度の見分け方、漁業の様子などについて伝えています。



●地域のまつりや学習会、食育イベントでの魚食PR

県内各漁協女性部では、地域のおまつりでお魚を使った料理やおいしさを伝えたり、学校の授業や公民館等で調理を指導しています。

また、朝市やおさかな食育イベントでも、地域で獲れる魚介類や食べ方を伝えるなど、消費者の方と積極的に交流し、魚食普及活動を実践しています。



●「紀州のさかな料理集」の作成、発行

各漁村に伝わる魚料理やレシピを紹介した料理集を発行しています。

*おさかなママさん：料理好きな部員を選出し、調理学・衛生管理等の講座を受講した者に漁協女性連会長が委嘱する、お魚料理普及のリーダー



取組事例 24 和歌山の漁業と魚食にふれる体験の実施

～ 少年水産教室開催やおさかな食育の支援 ～

少年水産教室は、水産業への理解促進や魚食普及のために、県内の小学校等で、子どもたちの体験学習を支援する活動で、漁業士を中心とする漁業者、漁協女性部、市町村、県などが連携して開催しています。



マダイやヒラメなどの稚魚放流や海藻を育てる活動、漁船や漁具の見学、旬の魚のさばき方実習や調理実習などを実施しています。



また、地域の漁業協同組合等が中心となり、一般の参加者を対象として漁業体験やお魚料理体験を行う海遊体験の実施や、漁業関係異業種が共同で取り組むおさかな食育ツアーの実施や受け入れ体制づくりを支援しています。

取組事例 25 和歌山のお魚を知って、食べてもらう機会を増やしたい (和歌山県漁業協同組合連合会)

和歌山県漁業協同組合連合会では、県内で水揚げされる魚や海藻を知ってもらい、食べてもらう機会を増やすために、県内の産直マーケットや道の駅などで、旬の魚や食べ方を紹介し、実際に試食してもらうPRイベントや直売を実施しています。



「和歌山県食育推進フェア」 ～ 知ろう! 伝えよう! 和歌山の「食」～ の実施

県では、多くの方に「食について関心や考える機会」をもっていただくため、関係15団体の参加協力により、県内の食育推進の取組状況のパネル展示や、旬の県産農畜水産物とその機能性・栄養価を周知するとともに、県内に伝わる伝承料理や、県産物を活用した学校給食等を紹介する「和歌山県食育推進フェア」を開催しました。

- ◆開催日時；平成18年11月18日（土）
午前10時から午後5時まで
- ◆開催場所；和歌山駅西口地下広場
- ◆参加協力；和歌山県農業協同組合連合会
和歌山県漁業協同組合連合会
社団法人畜産協会わかやま
和歌山県牛乳普及協会
和歌山県養蜂組合
和歌山県養鶏協会
和歌山県特用家畜普及推進協議会
和歌山県熊野牛ブランド化推進協議会
和歌山県食品産業協議会
財団法人和歌山県学校給食会
社団法人和歌山県調理師会
社団法人和歌山県栄養士会
和歌山県学校栄養士研究会
和歌山県食生活改善推進協議会
和歌山県生活研究グループ連絡協議会



会場の様子



栄養診断・食事バランス診断コーナー



地場産物を使った学校給食展示



県産物を使ったシェフの料理展示

取組事例 27

NHK食料プロジェクト「ふるさとの食 につぼんの食」和歌山県フェスティバル 「ふるさとの食 につぼんの食」 in 和歌山 (NHK和歌山放送局)

NHKは、「食」への関心を高めてらおうと、平成13年から関係機関と連携し、NHK食料プロジェクト「ふるさとの食 につぼんの食」を展開しています。

また、NHK和歌山放送局では、平成18年12月23日に紀の川市のJA紀の里ファーマーズマーケットで開催した「『ふるさとの食 につぼんの食』 in 和歌山」の告知放送を積極的に行い、イベントを通じて、より多くの人たちが地元の食材に親しんでもらえるよう努めました。

当日会場では地上デジタル放送受信公開により、和歌山の旬の食材を紹介する「旬の達人」のデータ放送を体験していただいたり、食料プロジェクトについてのアンケートを行ないました。回答者には抽選でNHKグッズをプレゼントし、大変喜ばれました。



取組事例 28

リスクコミュニケーションの推進

「食の安全タウンミーティング」

食の安全に関しては、輸入食品の農薬や医薬品の残留、生鮮食品の不適正表示など食の安全に対する消費者の信頼が揺らいでいます。

食の安全と信頼を確保していくためには、食に関する正しい情報について、消費者や生産者、事業者（食品製造・加工、流通・販売業者）と行政機関が

共有し相互理解を深め、適切に行動していくことが大切です。

消費者や生産者等立場の異なる方々と意見交換を行い、行政担当者が食の安全に関わる不安や疑問点について、共に考えることを目的に「食の安全タウンミーティング」を開催しています。

